



# 令和2年度 放射線安全規制研究戦略的 推進事業重点テーマ案

健全な放射線防護実現のための  
アイソトープ総合センターをベースとした  
放射線教育と安全管理ネットワーク

代表 大阪大学 篠原 厚



# 平成30年度放射線安全規制研究 戦略的推進事業重点テーマ案

## A. 廃棄物管理に関する研究

- 1) 医療機関等における放射性廃棄物の適正管理のあり方と廃棄物低減に関する研究
- 2) RI施設の空气中RI濃度、排気、排水の合理的管理に関する研究

## B. 安全作業に関する研究

- 1) 大型放射線発生装置施設における危険性の定量的評価研究
- 2) ジェネレータ生産短寿命金属核種の利用における合理的な放射線安全管理のあり方に関する研究
- 3) 放射線施設におけるヒヤリ・ハット事象の収集とデータベース構築

## C. 放射線教育・人材育成

- 1) 放射線テロを想定した被ばく医療プロフェッショナルの育成
- 2) 教育標準化のための教育訓練教材開発

## D. 緊急時対応

- 1) 緊急時における難測定核種の迅速な環境分析法開発

## E. その他

- 1) 研究教育用RI投与動物の退出基準の検討
- 2) 放射線透視併用手術における術者および患者被ばくに関する研究
- 3) CTでの患者被ばく低減に関する研究
- 4) 大量核燃料保管管理法の研究
- 5) 大量トリチウムの保管管理法の研究
- 6) 大強度中性子線源保管管理法の研究



# 平成31年度放射線安全規制研究 戦略的推進事業重点テーマ案

- (1) 非密封放射線施設の合理的な廃止措置に関する研究
- (2) 新しい形態の放射線業務従事者に対する従事者管理方法、教育方法のあり方に関する研究
- (3) 短寿命RIの安全管理に関する研究
- (4) 放射線発生装置施設における安全基準の定量的評価のための研究



# 大学、研究機関のRI施設

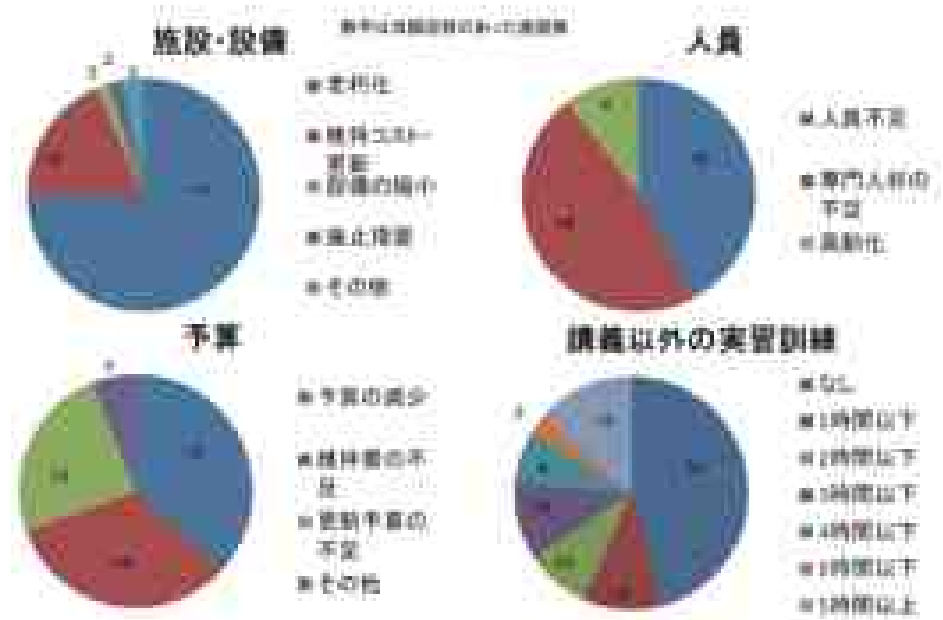
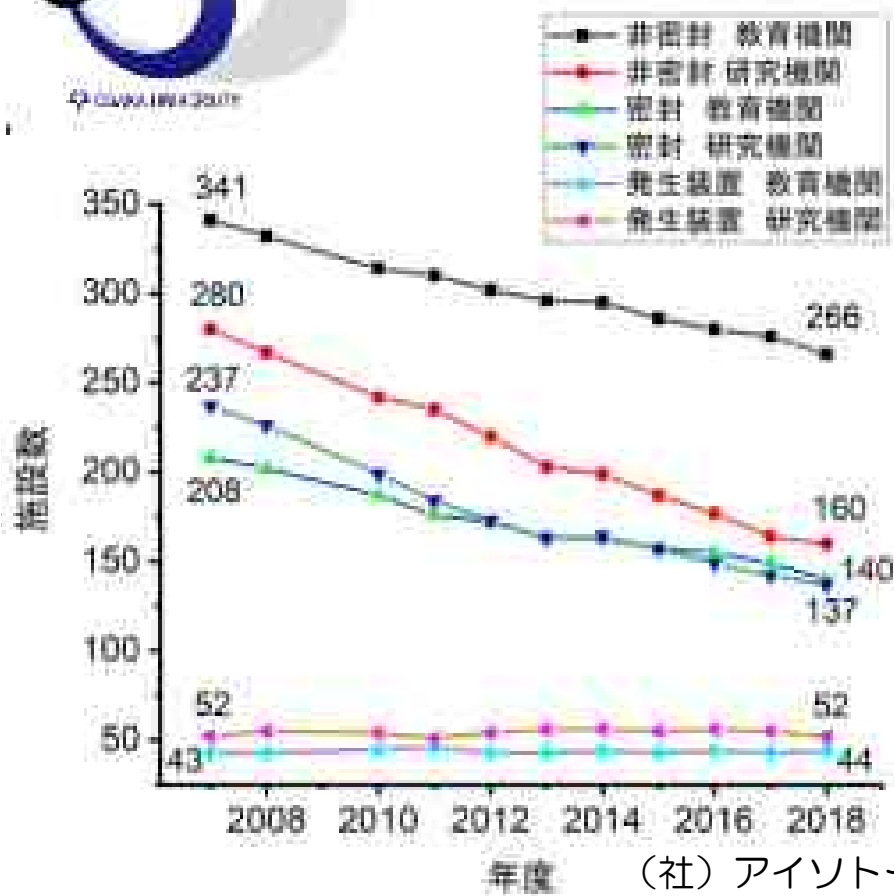


図 7.13 大学における放射線管理の現実事情  
(出典) 原子力規制庁「放射線利用の現状と今後の展望」(平成28年度版) (放射線利用の現状と今後の展望) (2016年)

H29 原子力白書

施設の老朽化、予算減少、人員不足

現状：全国のRI施設は増加している。  
5283施設 (2007) → 8096施設 (2018)  
一方、大学・研究機関の一部のRI施設は減少  
非密封施設 およそ30%減 (2007-2018)  
密封施設 およそ40%減 (2007-2018)

- 実質、休止している施設も多数あると思われる
- 施設の効率的な利用が、安全管理の観点からも重要



## 研究テーマ案1

### 管理区域の柔軟な運用のための調査研究

- 廃止したくても、予算等の面で廃止出来ない場合もある
- 実質、休止している施設も多数あると思われる  
使用していないにも関わらず、通常使用時と同じ管理を行う必要があるのか？

施設の休止、停止等、放射線管理区域をより柔軟な形で運用できるよう  
新しい施設の管理方法を検討し、法改正のため提言を行う

#### 研究課題

- 国外での管理区域の運用方法等の事例の収集
- 廃止済み施設への調査、良好事例の収集
- 廃止の際の汚染検査等の基準の妥当性・問題点の洗い出しと解決策の提示
- 新しいカテゴリーとなる施設休止に必要な要件の調査
- 施設休止、停止の場合に現行の法令で問題となる点の解決策の検討
- 提言



## 研究テーマ案2

# 新しい形態の放射線業務従事者に対する従事者管理方法、教育方法のあり方に関する研究

- 自機関に放射線施設をもたない放射線業務従事者
  - クロスアポイントメントの放射線業務従事者
  - 短期間滞在の外国人
- 等、

従来の枠組みにない新しい形態の放射線業務従事者が今後も大きく増える教育訓練、健康診断、被ばく線量の管理が必要

新しい形態の放射線業務従事者に対する管理方法の全国共通のルール作成、教育方法の整備に必要な事項を研究

### 研究課題

- 国内外での各施設における従事者管理方法及び記録保管方法の調査  
    良好事例の抽出
- 全国共同利用施設等、各施設間の意見調整
- 国内放射線施設を利用する外国人の施設利用要件の統一に必要な事項の洗い出しとルール作成
- 管理方法をまとめたマニュアルの作成
- 教育訓練の水準均てん化のための資料の作成